

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

⑩

性能以外の要件

人工知能(AI)技術の性能が高まり、さまざまな応用が社会に広がっている。それに

も取り上げられるようになった。

首脳会議や経済協力開発機構(OECD)で

AI技術の性能向上とは異なる視点での研究開発が求められる。A

根本的に異なる。ブラ

「人間」の視点で求めらるるのは、個人・

文・社会科学とAIを力の獲得につながる

要になっている。

日本政府の「人間中心のAI社会原則」、欧

州委員会「信頼できるAIのための倫理指

針」、米電気電子学会(IEEE)の「倫理

視点で求められる的に配慮されたデザインは、AIソフトウェア

「AIシステム」の

脆弱性などの特有の

問題も指摘されている。安全性・公平性・

揺るがす、という懸念

AI開発 社会との関わり重要

情報科学技術に関わる倫理的・法的・社会的課題は2000年代前半から認識が高まり、それらを踏まえた

「社会におけるAIのあり方」は現在、国・

世界レベルの指針として検討・策定され、主

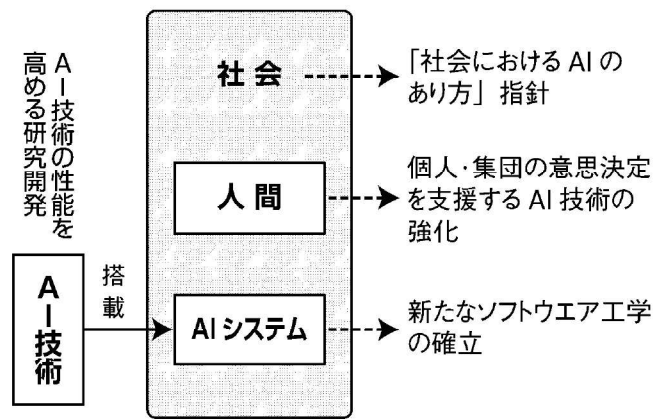
要20カ国・地域(G20)

科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センターフェロー(システム・情報科学技術ユニット) 福島 俊一



東京大学理学部物理学科卒、NECで自然言語処理・情報検索の研究開発に従事後、16年から現職。工学博士。11-13年東京大学大学院情報理工学研究所客員教授、18年から人工知能学会監事。

「社会におけるAIのあり方」を考えた研究開発



(金曜日に掲載)